



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



催の通知を司教名で九月の第一日曜日までに発送することを決めた。

今年の夏期講座 八月二十三日(月)から二十七日(金)までザビエル教会で竹山昭神父の夏期講座が開かれる。今年のテーマは「原初物語(創世記一〜十一章)―原初物語に人間を考える―」。例年通り午前の部は十時から、午後の部は十九時から。受講料は五日間通して五百円。



塔が完成し瓦の塗装終える 旧ザビエル聖堂

宗像市の福岡黙想の家の「祈りの森」でその再生が進められている旧ザビエル聖堂に教会のシンボルでもあった塔が完成し、またあの鮮やかなオレンジ色の瓦屋根が復活した。待ち望まれている再生はもうそこまで来ている。(報告/6月3日・土田充義さん)

「教区財政」テーマに教区評議会

十一月三日にザビエル教会で開催

司教評議会が七月五日(月)教区本部で開かれ、二〇一〇年教区評議会を年間行事予定表にある通り十一月三日(水)午前十時から午後三時まで鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で開催することに決定した。テーマは「教区財政の現状を知り、考えよう」で、困窮する教区の財政問題を信徒皆で検討することになった。

今週秋に予定されている「教区評議会」(二年に一回開催)のテーマについて議論した結果、来年度から中止が決まっている財政正常化献金に代わる財源の確保について、教区経済問題が現在取り組んでいる「教区財政の正常化の方策」を教区民全員で話し合ってもらうことがふさわしいという結論に達した。議論の中で「教会の中ではお金のことについて話すことの難しさがあるためこの話は避けてきた」という意見もあった

が、これからの教会の維持や教会の使命である宣教司牧活動を継続させるためにはどうしても避けて通れない問題であるとの見解で一致した。教区会計部からは、現在のシステム、すなわち小教区の維持費の20%を教区費、10%を地区費としてきたが、来年度から全小教区が一律に30%を教区費としてほしいという提案がなされた。しかし、その変更については一九七七年施行の「鹿兒島教区財政の正常化

ザビエル上陸記念祭

8月15日(日)

第1部 ザビエルウオークと「平和の鐘を鳴らそう」

13時30分 祇園之洲・ザビエル上陸記念碑前を出発し、ザビエル縁の地を巡ってミサとパーティー会場のザビエル教会を目指します。到着後はユネスコの皆さんと平和の鐘を鳴らします。

第2部 記念ミサ

第3部 パーティー

入場料 大人

1,000円

小・中学生 500円

計画書(全文は二頁に掲載)の改定が必要となるため、教区評議会での改定案について議論して欲しいとしている。また、同上の計画書の中身を周知してもらい必要もある。そこには、小教区、地区、教区の各会計が取り扱う主な科目が掲載されている。なお、司教評議会は小教区での話し合いに必要な書類を添付した教区評議会開

新風

共同体、という言葉は教会の中や一般社会の中でよく耳にする言葉の一つです。しかしもしこの言葉の真の意味をすべての人がよく知り、それが実践されているならば、そこには平和のみなごる社会(人間関係)が実現していると思えます。共同体とはギリシア語のコイノニアの邦訳ですが、①交わり、②一致、③共有、という三つの意味を内包している意味深い言葉です。教会では父と子と聖霊の交わりに入る洗礼によって個々の信者は共同体に結ばれます。男女が結婚によって共同体になり、その間に生まれる子供によって共同体は豊かになります。それは交わり、一致し、共有するものがあるから共同体になるのです。これらの三つの条件がなければ、個人か団体として留

平和の基礎としての共同体

決勝トーナメントまで勝ち進んだチームの一致団結力を誰かが称賛していました。この一致団結力こそ、共同体が持つべき本来の力なのです。さて、教会に集う共同体としての信者さんはどこにその力の源を見出しているのでしょうか? ミサの冒頭のあいさつで司教は会

衆に向かつて言います。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがみなさんと共に」と。また聖パウロはその手紙の冒頭で必ず「わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように」と言っています。そして、ミサの後半の方で聖体を頂いて、わたしたちはキリストと一致します。スポーツが勝利を目指しているのに対して、信仰者は平和を指しています。平和とは単に戦争のない状態ではありません。憎しみ、反目、ねたみ、無関心など、人間関係を断ち切るものはすべて平和に反します。平和は愛、正義、自由、平等をすべての人が共有できる社会の基礎なのです。八月は特に平和について考えるときです。(H・N)

私たちの希望

教区神学生の紹介

- 「プロフィール」①洗礼名 ②出身教会 ③学年 ④在籍校 括弧内の年数は修学期間
- ▼貴島文弥神学生①パウロ ②名瀬 ③神学科一年 ④聖カルロス大神学校 (マニラ)
- ▼園田克也神学生①アシジのフラ ②玉里 ③神学部一年(五年) ④ナバラ大学(パンプローナ・スペイン)
- ▼久保裕己神学生①ヨゼフ ②川内 ③神学科三年 ④日本カトリック神学院 (福岡)
- ▼チョンポフ ①アントニオ ③神学科五年(七年) ④インチョンカトリック大学(韓国)
- ▼ソンジンウオク神学生①ドミンゴ ③神学科五年(七年) ④インチョンカトリック大学(韓国)
- ▼田代竜之介神学生①ヨゼフ ②赤木 ③高木 ④長崎カトリック大学(韓国)
- ▼大田 ①パウロ ②鴨池 ③高一年 ④長崎カトリック大学(韓国)

会計部から御礼

信者の皆様へ いつも神学生たちのために祈りと経済的援助(神学生養成費)を頂きありがとうございます。昨年と今年、個人的に高額な寄付を頂きました。また、結婚式の謝礼の一部を神学生のために寄付して下さいました。心から感謝申し上げます。(教区会計 中野裕明)

# 鹿児島教区財政の正常化計画

(一九七七年五月/二〇〇〇年七月一部修正)

## 「存じでしたか?」こんな規定

教区はいわば、イエス・キリストによって集められた一つの家族である。この家族は神を父と仰ぐ神の家族であり、司教と司祭団、それに修道者を含む信徒によって構成されている。教区民は福音と諸秘跡を通して聖霊において生かされ、司教をはじめ司祭団の奉仕によって信仰を深め豊かにしていくのである。

このように、小教区、地区、教区の各会計の取扱い範囲を統一する。

1日(三月三十一日)

### 2・小教区、地区、教区の各会計の取扱い範囲を統一する

(a) 小教区会計  
小教区の維持運営、小教区レベルの諸活動費及び減価償却費等。

なお、家政婦、カテキスタ、事務員等の人件費を含む。但し、司祭の生活費は地区会計で賄う。

### (b) 地区会計

① 地区司祭団の生活費  
② 自立できない小教区の援助

③ 地区レベルの活動、事業費

### (c) 教区会計

① 教区本部(司教館、本部事務所)の維持・運営

② 司教座聖堂の維持・管理

③ 研修の家など教区本部付属施設の維持・管理

④ 教区レベルの諸事業費(司祭養成、各種研修養成事業など)

⑤ 教区レベルの諸活動費(各種委員会の活動、教区行事など)

⑥ 教区レベルの各種団体への援助

⑦ カトリック中央協議会、ローマ聖座等への教区負担金

⑧ その他の必要事項

3・会計事務及び報告様式は別紙収支計算書の通り

4・会計年度の統一(四月)

(c) 教区  
司教、地区長、教区顧問会及び信徒若干名からなる

1・管理者  
(a) 小教区  
主任司祭を長とし、助任司祭(もしあれば)及び信徒四名以上による小教区財務委員会を設置する。

5・各会計の報告先  
教区会計は、全司祭、全修道院長及び小教区財務委員会とする。

この維持費は下記の基準によって配分される。

① 小教区へ 70%  
② 地区会計へ 10%  
③ 教区会計へ 20%  
但し、1) 小教区会計と地区会計への配分比率は、地区の特殊事情に応じて変更することができる。

II 信徒の教会維持費負担と配分基準の統一  
信徒は自分の信仰を経済的にも具体的に表現し、小教区、地区をはじめ教区の維持運営と諸活動のため、下記の基準のもとに教会維持費を負担するものとする。各信徒は自分の生活事情を考慮し、この基準を目安にして、できる人はそれ以上の、できない人はそれ以下の負担額を自分で自由に決定しなければならない。さらに、一定の収入のない信徒であっても、できる範囲で教会の財政を助けていくよう努めることが望ましい。

各信徒はその収入の3%を教会維持費として負担する。

III 臨時に実施される特別献金、積立金等(教会、会館等の建設資金)は上記基準とは別扱いにする。

IV 以上の正常化計画は、一九七七年七月一日より実施される。

## 秋以降の巡礼計画=参加者募集=

### 教区巡礼委員会

#### ●フィリピン宣教100周年巡礼(四泊五日)

10月14日(木)～18日(月)

同行: 郡山司教・ベルナルディーノ神父

費用: 115,000円(10人以上)

※貴島神学生を訪問します

#### ●レオ七右衛門殉教祭巡礼

11月14日(日) 巡礼バス運行 費用: 2,000円

#### ●屋久島シドッチ祭巡礼(一泊二日)

11月22日(月)～23日(火) 費用: 35,000円

#### ●屋久島シドッチ祭巡礼(日帰り)

11月23日(火) 費用: 18,000円

#### ●種子島カタリナ祭巡礼(一泊二日)

11月27日(土)～28日(日) 費用: 35,000円

#### ●奄美大島巡礼(二泊三日)

2011年2月11日(金)～13日(日) 巡礼費用: 未定

申込みお問い合わせ: 教区巡礼委員会

徳永善博委員 ☎ 099-206-7221 携帯 090-3669-0423

## [和善の窓から] その(自)

### 祈り・「どうか望みの神が…」

—ロマ15:13—



だけでもいいなあと思っています。これからも「和善の聖書」が続く限り唱えることにしたいと思います。

Fr. 松田清四朗

「どうか、望みの神が、信仰からくるあらゆる喜びと平安とを、わたしたちに満ちし、聖霊の力によって、わたしたちを望みにあふれさせてくださいますように。」

学生時代から唱えている祈りです。聖書学の教授が講義の前に私たちと共に唱えた祈りです。それ以来、和善の聖書でも祈るようになりました。

「和善の祈り」ということで唱えだして、かれこれ40年以上になりました。36年間の和善参加者のみな様がこの祈りを覚える

### ～和善の案内～

■後期和善は、9月3日(金)から始まります!

◆新しい参加者を歓迎します!

▲和善の聖書講座(本部三階にて)

※月 18:30 ※水 10:00(第2,4)

WAZEN ころろ相談室(第1,3:要予約)

※金 10:00

★和善耕心塾ブログ

<http://mr826.net/wazen/blog> (Fr. マツダ)

### +KABAYAN SEKSIYON+

#### "Kawalan ng Pananampalataya laban sa Pagtitiwala/Pagsamba"

Sa ikatlong larangang ito ng pananampalataya-ang Pagsamba-isang karaniwang pagtuligsa mula sa ilang kasalukuyang sikolohiya na nagpapatang na ang relihiyon ay isa lamang ilusyon, isang pambatang paglalarawan ng animo'y nawawalang ama.Sinasabi nila na nag-iimbento tayo ng amang-diyos upang magbigay ng kapanatagan laban sa ating mga takot sa malupit na mundo ng ito. Bunga nito, tinutuligsa nila ang batayan ng Kristiyanong Pag-asa, kaya nadadala nila ang ilan sa pagkasira ng loob at maging sa kawalan ng pag-asa.Natutukso ang iba sa kapangahasan: sa pagiging pangahas sa kakayahan lamang ng tao o kaya'y sa awa ng Diyos na wala namang pagsisisi at pagbabago ng kalooban. Ipinakikita ng PCP II ang kabaligtaran anyo ng kawalan ng pananampalataya kaugnay sa pagsamba. Hal:Sa Pilipinas, sa kasamaang-palad, madalas na ang pagsamba ay nahihwalay sa kabuuan ng pamumuhay. Hindi nakikita ang liturhiya bilang bukal at taluktok ng buhay ng Simbahan.Sa halip, itinuturing itong isang departamento ng buhay na walang malalim na kaugnayan sa buhay-panlipunan,pang-ekonomiya, at pampulitika.) Totoo ring madalas na may ilang mga nakagawiang tanyag na gawang-kabalan at kaugali-an na nagmumukhang parang pamahiin, at mga makasarili at mapagsariling asal kaysa tunay na Kristiyanong panalangin.Tugon:Malinaw na "Isang Pinanibagong Pagsamba" ang paraan sa pagtugon sa mga pagbatikos dahil sa kawalan ng pananampalataya laban sa pananampalataya bilang pagsamba.Inaatasan ng Konsilyo Plenaryo ang isang aspeto ng kinakailangang lunas: May mahigpit na pangangailangan na bigyang-diin sa mga Pilipinong Katoliko na dapat maging isang kilos ng pagsamba ang kabuuan ng buhay, tulad ng sinasabi ni San Pablo sa kanyang sulat sa mga taga-Roma (Rm 12:1).Hindi natin masasamba ang Diyos sa ating mga simbahan at mga banal na lugar samantalang binabalewala Siya sa pang-araw-araw na kalakaran ng buhay. Ang pagpapanibago sa pagsamba ng ating mga kababayan ay nangangailangan ng pagpapanibago sa kanilang buhay-panalangin at mga tanyag na relihiyosong kaugali-an."Ang ating asal ay kinakailangan maging isang mapanuring paggalang, mapanghikayat, at mapanibago. Dapat humantong sa liturhiya ang mga gawaing ito.Kinakailangan silang maging makabuluhang nakaugnay sa buhay-Pilipino,at tumutugon sa layunin ng ganap na kaunlarang pantao,katarungan,kapayapaan,at ang dangal ng sangnilikha.Dapat tayong magkaroon ng lakas-loob na iwasto ang anumang nagdadala sa panatisismo na kontra sa tamang pananampalataya."

# ネット宣教って何…? (月)

## 具体的にはどうするの?

先月号ではネット宣教委員の田中和幸さん(吉野教会)がまとめた手引きから「ネット宣教の概要」を紹介した。今月は同手引きからどのようにネット宣教に取り組んだらよいかを紹介したい。

- ①各教会に、ネット宣教の管理スタッフ二〜三人を決め、サイトの管理・運営に当たる。(記事の更新・コメントの管理など)
- ②掲載記事収集の手段として、班会・集会・親睦会などの際に語られた話題などを提供してもらい、内容が適していればホームページに記事として掲載する。
- ③ネット宣教箱を教会内に設置し、誰もがいつでも自由に記事を投稿できるようにする。(無記名でもOK)
- ④過去に出された記念誌・文集などの記事から、本人またはご家族から了解を得たうえで掲載する。
- ⑤信仰体験以外にも、主任司祭の紹介、教会の特色、お知らせ(バザー・クリスマス会・復活祭の案内)などのコーナーを設け、徐々に見所の多いホームページに作り上げていく。

### 司教執務室便り

## ブイジュ祭讃歌

先月八日から十二日にかけてのふるさと瀬留小教区訪問は印象深いものだった。十一日のブイジュ祭は、前後の各教会での司牧訪問とともに心に残るものだった。

そんななかで、ブイジュ祭が村の祭りとなつて驚いた。かつて来客用に改装した部屋での朝は信者たちが当番制で鳴らすという六時のアンジェラスの鐘で目覚めた。七時を回った頃集落の放送が始まった。いくつのお知らせのあとで「カトリック教会からのお知らせをいたします」に驚いて聞き耳を立てた。「ブイジュ神父様の命日にあつたの墓参り」のお知らせだった。九時の墓前での祈りには、やはり信者以外の人々も高齢にもかかわらず、しかもあの階段を物ともせず参集され、神父様が集落の人々の心に今なお「健在」であることを目の当たりにして心が熱くなった。

かち合いに感動。毎朝の散歩の途中聖堂前を通る際に御聖櫃の「イエズス様に手をあわせて『今日も村の人達を守ってください』とお祈りをするのが日課」なのだという。主日のミサには失礼しているが鐘楼係を引き受けてお告げの鐘を鳴らし、人知れず教会の庭の手入れをする。これも教会を愛する姿に違いない。こうして御聖体に一歩ずつ近づいていくようで嬉しい。

ともあれ、一九二二年(大正十一年)に帰天された神父様についての思い出がすかすかに残っている人や神父様に大事にしてもらった思い出を聞かされた人たちがまだ健在だということを知るにつけ、神父様が残された「教会の風土」を誇らしく感じた。

神父様のふるさととの国際交流の話もあるという。小さな村の教会からの大きな発信。ぜひ実現して欲しい。「船を焼いた」(二度と故国の地を踏まないたとえ)ブイジュ神父様を偲びつつ、一人ひとりがまたすべてを神様に委ねきつた日々となること願ひながら捧げた墓地から教会までのロザリオも心にしました。



現は、あらゆる事が可能。そのための、システムの利用・活用方法などは、その都度必要に応じて各小教区の管理スタッフを招き、ネット宣教委員会で説明を行えるよう、努力したい。また吉野教会のように独

## 聖霊にふれ宣教心を強める

### 教区本部で第二回宣教学校

六月二十二日(火)から二十四日(木)まで教区本部で「聖アンデレ福音宣教学校」が開かれ、三十七人が「新しい命」をテーマに学習した。

この宣教学校は、一九八〇年にメキシコで始められたもので、現在では世界六十か国以上で実施されている。教区における同学校は、昨年五月に教区本部で開催されて以来二度目。前



自にホームページを設けなくても教区のホームページ内に小教区のコーナーを設置することも可能。そのような要望もぜひネット宣教委員会へご一報頂きたい。連絡は教区本部まで。

回はメキシコ人やブラジル人などの講師を招いてのもので、今回は前回の受講者たちが準備し講師を務め、これに司教数人が加わっての開校となった。

参加者たちは、「神の愛」や「罪」などのテーマ別にそれぞれの担当講師が工

### 短信

▼古田町教会で堅信式  
六月二十日(日)堅信式があり九人が受堅した。

▼溝辺教会堅信式  
六月二十七日(日)堅信式があり三人が受堅した。

▼パツシヨンの会  
障害者自立の会「パツシヨンの会」では、七月十一日(日)鴨池教会で

定例集会を開き、個人の自立と家族の自立、また経済的・精神的自立について話

### 文芸

俳句

吉野 徳永ノブ子

巡礼の著書に楽しむ梅雨ごもり

ミサ主日主に守られて朗読す

純心学園 山頭 信子

朝霧や恵の丘はアンゼラス

五月雨や晩課の響く山の家

古里の棚田のみどり半夏生

純心学園 川上 和

さみだれの庭に静まり聖母子像

出水市 沖 弘子

霧島市 政 ノブ子

百合活けて祝す司祭の霊名日

愛光園 春山マリ子

命火が今日も照らして夏明り

園に来て五度目の楽し夏祭り

短歌

鴨池 前田 儀子

噴水に足ぬらす子らもずんぐりの鳩らも

同じ時を遊べる

大笠利 稲 牛憲

三十年ぶり再任の神父様世代の変わりをし

みじみ語る

愛光園 春山マリ子  
灰色の空より落ちる雨粒に木々をも濡らし自然も生きて

奄美市 林 明子  
涙さえみあげた月はほほえんでなつかしい歌ふと想いだす

純心学園 川上 和  
ベタニアのシモンの家に香りたつみ足に注ぐナルドの香油

詩の眼  
鹿児島市 田平新太郎  
磯波に生かされる思川河口の潮目ひく夜は 心悲しくも

桜島の忘れ雪をいたたく北岳に 呼びかけられて暮れ泥む棚田の畷に舞う

鬼火にすがるひびきの如く引いては満つる潮となりて限りなき磯波に 抱かれながら見上げるマリア山荘の灯火にあたしが―あたしを

さだめの如くいざなえば 天主の笑顔が うかぶ

## 8月会と催し

夫を凝らして準備してきた講話と情熱に感動した様子で、口々に「勇気をもらった。神の道具として働きたい」と決意を語っていた。

- 1日(日) 年間第十八主日
- 2日(月) アルフォンソ祭
- 3日(火) ルーシン神父命日(一九九四年) 主の変容
- 6日(木) カトリック平和旬間始まる(〜15日まで)
- 7日(土) 小平卓保神父命日(二〇〇五年)
- 8日(日) 年間第十九主日
- 10日(火) 田原章神父霊名(聖ドミニコ)
- 15日(日) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 22日(日) 聖母の被昇天
- 23日(月) ギブリエル上陸記念祭・祇園之洲及びギブリエル教会・13時30分
- 24日(火) 年間第二十一主日
- 28日(土) 夏期講座「原初物語に人間を考える」・ギブリエル教会ホール・〜27日まで
- 29日(日) 橋口啓悟神父霊名(聖アウグスチヌス)
- 30日(月) 年間第二十二主日

9月からのアルファコース  
第1回:9月2日(木)10時〜13時 場所:ザビエル教会ホール ※昼食代として500円以内の献金  
申込み・問合せ:柳正子  
TEL 090-4587-2187

2010年(平成22年)8月1日(毎月1日発行)

二〇一〇年

平和旬間を迎えるにあたって

日本カトリック司教協議会 会長談

日本のカトリック教会は、毎年八月六日から十五日までを平和旬間としています。一九八一年にヨハネ・パウロ二世前教皇が来日し、広島と長崎で平和のためのスピーチを出されたことを機に、この平和旬間が始まりました。広島、長崎の原爆記念日を挟んで、終戦記念日までのこの十日間は、日本のカトリック信者にとって、特に平和について学び、行動する期間となっております。

本も平和を求める声があふれ、世界では核廃絶への声、日本国内では沖繩の「もう基地は要らない」という声です。

昨年、米国のオバマ大統領はブラハ宣言で核兵器のない世界の実現を訴えました。日本に対する直接的謝罪ではないにしても、人類史上初めて原子爆弾を投下した自国の「道義的責任」に触れました。単に核廃絶に向かおうという理想を述べたのではなく、それがヨハネ・パウロ二世教皇の言葉のように過去の過ちを目を向けたところからの決意であったことに意味があります。

去る五月、長崎教区の高見三明大司教は原爆によって廃墟となった浦上の地から拾われた「被爆マリヤ」を携え、米国民と国

与えられたシリーズを終わる。読んでお気付きのことと思うが、書かせていただいたことは、殆どが私の失敗にまつわるものである。「クビになるか、降格」につながる内容であった。しかし、そうはならず、かえって昇進や表彰に結果することになる。いまだに何故か理解できない。ただ、一人のキリスト者として、「みことば」に生かされた賜物であると確信している。私にとって「救い」であった。

やがて仕事も忙しくなり、家庭をもち、転勤など。聖書を読む時間があつた。聖書を読むと疲れて寝てしまう。そういう日々であった。ある日、一日に五分間だけ読んでみよ

みことばシリーズ⑭ 一日五分 終身助祭 桃菌淳一郎

線を引くことにした。これは、後日パラパラとめくった時、目に付くためである。慣れるに従って、たったの五分間に数頁を読めるようになり、年間をとおしてかなりの数の本が読めた。ま

連関係者に核廃絶を訴えさせた。恐ろしい原爆の証言者としての「被爆マリヤ」は、数知れない原爆被害者とすべての戦争被害者の叫びを、焼けただれたその姿をもって自らのうちに表わし、世界の人々に平和の大切さを訴え続けています。私たちは「将来に対する責任を担う」ためにも、こうした被害者たちの叫びにま

日本も自国のことを振り返らなければなりません。今年の八月二十二日は日本が韓国を併合し朝鮮半島を植民地化した「韓国併合」条約締結百年にあたります。この歴史の大切な節目に、私たちカトリック教会の責任を含め、日本の植民地政策がどのようなものであつたか、それが人々をどう傷つけてしまったのかを真摯に振り返ることが大切です。日本の司教団も「戦後六十年平和アピール」で「わたしたちは過去の植民地支配や武力による侵略という歴史的事実を真摯に

異国で見つけた私のキリスト像

教区大神学生 貴島丈弥

この一年、フィリピンで青少年司牧者の基礎養成を受けてきました。フィリピンは日本より貧しいということや養成の意向により、



た、副産物として、集中力が養われていった。会議などに於いて、メモをとることなく要点が頭に入るようになり、仕事の上でも大へん役にたつた。さらに、要

た。副産物として、集中力が養われていった。会議などに於いて、メモをとることなく要点が頭に入るようになり、仕事の上でも大へん役にたつた。さらに、要

うことは自らを卑下することではなく、かえってキリストが求める真の人間の姿に近づくことなのです。この姿勢をもってこそキリストは、「敵意」という隔ての壁を取り壊し、「真の和解へと私たちを導いてくれるのです。今年も迎える平和旬間に

生活しながら学びあつてきました。自分にとつてすべての学生に思い入れがあり、みんなのおかげでこの一年乗り越えられたようなものなので、ぜひ紹介したいのですが語りつくせないで、語りません。養成を受けるにあつた時の私の目標は、キリストとの関係をより深めるということでした。そして、そのために自分のことを深く知る、自分自身との関係を深めるということでした。期間中は毎日が分かち合いで、自己表現、言語化といったものが苦手な私にとって、毎日が緊張の日々でした。そして、敬語表現の乏しい言語や文化の中で、小さな表現にいつもいららしているというとても心細い小さな自分と向き合ひながら、「福岡の神学生に会

お知らせ
●ホリスティック黙想会「免疫が上がるための祈り」
●みことばと祈りの集い

があつたとしても、それに従う必要はない。たとえそれがイエスであっても「これは個人的な理想中に語りかけられたこと」です。きっと父からのものだと感じます。子供たちや貧しい人たちの出合いを通して「イエスのイメージから離れなさい、私が新しいイエスを送る」と聞きました。そして「新しいイエスって何？」と思ひながら待つていました。目を閉じれば誰かをイメージできる。目の前に誰かがいるとき、記憶に左右されるだろうけど、イメージではない。イエスはイメージではない、今自分の中に、自分の一番近くで生きています。だからイメージに縛られていたら、人との出合いを本当に大切にできないということなのかな。そして、浴衣姿のイエスに出会いました。そしてそれは聖霊が私になつてくれているんだということにも気がきました。自分の中の聖霊に耳を傾け、自分にしかできない道を教えてもらおうということだと思ひますが、誰かに倣うことが苦手な自分にとつて優しさとして自由な言葉でした。

この一年、フィリピンで多くの恵みを与えられました。祈りによってどうかこれからも支え下さい。